

5

Annual Report 2018

卷末資料

院内行事

新規医療機器紹介

患者会・家族会活動実績

資格取得奨励支援制度

提案制度

学会発表実績

院内行事

| | 行事 |
|-----|--------------|
| 4月 | 入社式 |
| 6月 | 法人内認定看護師 認定式 |
| 8月 | 病院こども探検隊 |
| 9月 | 大規模災害訓練 |
| | 合同慰霊祭 |
| 10月 | 手洗い選手権 |
| 11月 | エマルゴトレーニング |
| | クリーンウォーキング |
| 12月 | クリスマスコンサート |
| | 白十字会大忘年会 |
| 1月 | 年頭挨拶 |
| | 院内成人式 |
| 3月 | 地震避難訓練 |
| | 院内看護研究学会 |

入社式

4月2日(月)、2018年度 社会医療法人財団白十字会の入社式が行われました。佐世保地区では、65名が白十字会の一員となりました。



病院こども探検隊

2018年8月4日(土)、医療現場を実際に体験できる「病院こども探検隊」を開催し、6年生22名が参加しました。

初めに、感染認定看護師による感染や手洗いに関する講演を聞いた後、実際に手洗いをしました。手術室では、電気メスを使用して鶏肉を切ったり、内視鏡手術のトレーニングキットを実際に操作したりとさまざまな体験をしました。

最後には、病院長より修了書の授与、そして、医療の仕事に興味を持ってもらおうとの思いで作成した職種紹介の動画を観てもらいました。



クリーンウォーキング

2018年11月10日(土)、街を清掃しながら健康的にさわやかな汗を流す、クリーンウォーキング2018が開催されました。91名の職員とその家族が参加しました。晴天の下、ゴミを拾いながら日頃の運動不足を解消しました。



新規医療機器紹介

臨床工学部

●人工呼吸器 SERVO-air

高流量・高圧の供給能力を備えたタービン内蔵型になっており、空気配管が設備されていない病棟でも使用できます。小児から成人まで対応し、集中治療から一般病棟、院内搬送まで幅広く使用できます。

静かなタービン設計により、駆動音が静かで患者や医療スタッフにも快適性に優れます。

わかりやすいユーザインターフェイスを使用しており、直観的な操作が可能です。

簡便にできるプリベンティブメンテナンスにより、長期にわたり高い品質と性能を維持します。



新聞記事などの紹介

当院は地域への情報発信を目的にメディアへのプレスリリース(パブリシティ)を行っています。以下がメディアに取り上げていただいた記事の項目です。

| 掲載月 | 内 容 | 掲載メディア |
|-----|--|--------|
| 5月 | 認知症疾患医療センター 医師・井手 芳彦 センター長の記事(認知症について) | 西日本新聞 |
| 5月 | 認知症疾患医療センター 精神保健福祉士・日和田 正俊 副主任の記事(認知症介護について) | 長崎新聞 |
| 8月 | 病院こども探検隊 | 長崎新聞 |
| 10月 | 監修書籍紹介 植木 幸孝先生(臨床研修、研究統括部長) 「関節リウマチ患者と家族のための生活を楽しむ知恵と技」 | 西日本新聞 |
| 11月 | 冬季感染予防キャンペーン | テレビ佐世保 |
| 3月 | 佐世保中央病院研修医 市川宏美先生の記事(医師を志した経緯) | 西日本新聞 |

患者会・家族会活動実績

日本糖尿病協会長崎支部「佐世保みなと会」

佐世保みなと会とは、昭和43年、日本糖尿病協会の長崎県支部佐世保分会として、糖尿病患者を中心に佐世保中央病院にて発足された患者会です。糖尿病に関する講習会、専門誌の配布など様々なことを計画・実施しています。



活動内容

①総会の開催

年に1回、11月に開催しています。医師、看護師、理学療法士、栄養士、検査技師などの参加のもと、総会、講演会、懇親会、グループワークなどを開催しています。

【平成30年度】

- ◎日時：平成30年11月15日(木) 15:00～16:30
- ◎場所：佐世保中央病院 南館5階 講義室
- ◎テーマ：「認知症と寝たきりを予防しよう」～食事と運動でひと工夫～
- ◎講師：リハビリテーション部 栄養管理部

②1型糖尿病の会「1型サークル」の開催

日本では、糖尿病患者のうち95%以上が2型糖尿病ですが、この会は1型糖尿病の患者さんを対象とした会です。平成23年4月より、講演会、懇親会などを開催しています。

【平成30年度】

- ◎日時：平成30年6月13日(水) 15:00～16:30
- ◎場所：佐世保中央病院 南館5階 講義室
- ◎テーマ：「カーボカウントって知っていますか？」
- ◎講師：佐世保中央病院
糖尿病センター 医師
管理栄養士



③糖尿病のことがなんでもわかる 月刊誌「さかえ」の配布

月刊誌「さかえ」は、糖尿病療養の最新情報、食事療法を活用したクッキングレシピ、療養生活のちょっとしたコツ、患者さんの体験談、医療スタッフの声などが掲載された糖尿病専門雑誌です。入会すると毎月読むことができます。糖尿病や予防に関する最新の正しい知識を取得することができます。



リウマチ友の会

平成12年7月8日、リウマチ全般に関して活発かつ自由な討論が出来る場をつくり、病気に関する理解を深めることを目的に佐世保中央病院に『リウマチ友の会』が発足しました。患者さんが中心に運営する会で、現在の会員数は70名程です。患者同士が親睦を図り、様々な医療情報や生活の工夫を交換し、交流できるように、そして医療従事者と患者さんが一体となりチームワークを組んで治療・ケアを行っていきける礎となるように、と活動しています。

活動内容

①リウマチ友の会開催

※過去開催された題目、内容(一部)

■医師講話

- ・「関節リウマチの最新の治療」
- ・「リウマチ治療30年」
- ・「関節リウマチと骨粗鬆症」
- ・「関節リウマチの治療目標 T2T」

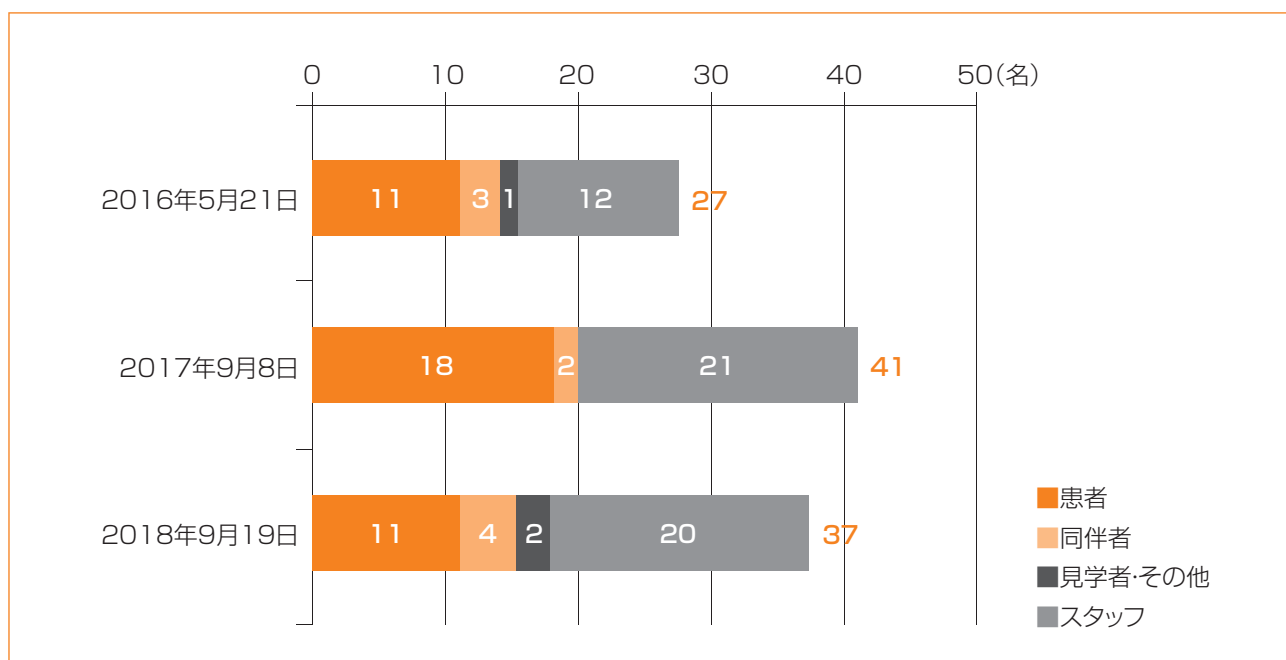


医師講話

●2016年度～2018年度 リウマチ友の会参加人数

(名)

| | 2016年5月21日 | 2017年9月8日 | 2018年9月19日 |
|---------|------------|-----------|------------|
| 患者 | 11 | 18 | 11 |
| 同伴者 | 3 | 2 | 4 |
| 見学者・その他 | 1 | 0 | 2 |
| スタッフ | 12 | 21 | 20 |
| 合計 | 27 | 41 | 37 |



メモリー・クラスルーム(認知症健康教室)

認知症に対する理解を深める事で、適切な介護方法を理解し、行動心理症状(BPSD)の予防や介護負担を軽くすることができます。当センター受診の予約をされて待機中のご家族や、診察が終わり確定診断を受けられたご家族、ドリームケア・ドリームステイ各施設利用ご家族を対象に、認知症の健康教室を毎月1回開催しています。また、より具体的な対応方法を学んでいただくために中級編を開催しています。

健康教室内容

初級編(偶数月)

- ①認知症ってどういう病気?
- ②治療薬のお話
- ③適切な介護について、
患者さんの心の中を知る
- ④介護体験談(『認知症の人と家族の会』より)
- ⑤介護保険認定の申請方法、
介護施設の上手な利用法について

中級編(奇数月)

- ①アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、
前頭側頭葉変性症のBPSDの対応方法
(センター職員の寸劇・解説)
- ②患者・家族と職員によるグループディスカッション
- ③ドリームケア事業所・サンガーデン利用説明、紹介
(DC花高川口所長、ドリームステイ サンガーデン
池田課長)

開催実績

| | 参加 家族数 | 参加人数 | 関連 職員人数 | 総参加 人数 |
|----------------|-----------|------|------------|-----------|
| 2018年 4月(初級編) | 20 | 41 | 0 | 41 |
| 2018年 5月(中級編) | 18 | 40 | 1 | 41 |
| 2018年 6月(初級編) | 10 | 25 | 2 | 27 |
| 2018年 7月(中級編) | 7 | 14 | 1 | 15 |
| 2018年 8月(初級編) | 12 | 24 | 1 | 25 |
| 2018年 9月(中級編) | 6 | 10 | 1 | 11 |
| 2018年 10月(初級編) | 7 | 14 | 1 | 15 |
| 2018年 11月(中級編) | 5 | 9 | 2 | 11 |
| 2018年 12月(初級編) | 10 | 24 | 1 | 25 |
| 2019年 1月(中級編) | 6 | 11 | 1 | 12 |
| 2019年 2月(初級編) | 11 | 18 | 0 | 18 |
| 2019年 3月(中級編) | 8 | 13 | 0 | 13 |
| 合計 | 120 | 243 | 29 | 254 |

※関連職員:長寿社会課職員、市内地域包括支援センター職員、DC職員

緩和医療研究会・緩和ケアチーム

| | テーマ | 講師・開催地 | 参加数 |
|----------|--|---|-----|
| 9/7(金) | 「在宅看取りの変化」 | 白十字訪看ステーション 内崎所長 | 40人 |
| 10/6(土) | 「オレンジバルーン街頭キャンペーン」 | 県北地区4病院 緩和ケアチーム 親和銀行本店4カ町アーケイド | 80人 |
| 11/27(火) | 第17回遺族会(家族会) | 佐世保中央病院本館5階ラウンジ | 30人 |
| 3月 | 第56回 地域共同学習会 ～エンゼルケア・エンゼルメイク～ 心豊かな最期のケアを 一緒に考えませんか? | 佐世保中央病院 南館5階講義室 緩和ケア認定看護師・ 法人内認定緩和支援ナース | 40人 |

●緩和ケアチーム 紹介

緩和ケアは、最近では、循環器疾患や呼吸器疾患など生命を脅かすすべての疾患に対処すべきものとされ、患者、家族のQOL改善のために早期から多職種チームによるサポートが重要である。また、生命予後を改善するさまざまな医療機器が普及してきた一方で、QOLを重視する終末期においては、医療機器の作動停止も考慮されるべき選択肢であり、これらの意思決定支援を行うことも緩和ケアの役割の一つであると変化しております。

●ACP(アドバンス・ケア・プランニングと意思決定支援)

AVP[アドバンス・ケア・プランニング advance care planning](愛称:人生会議)とは、意思決定能力が低下する前に、患者や家族が望む治療と生き方を医療者や介護者が共有し、事前に対話しながら計画するプロセス全体を指し、終末期に至った際に、納得した人生を送ることを目標としています。

●人生会議の日

厚生労働省は平成30年11月30日(いい看取り・看取られ)「人生会議の日」定め国民の休日と定め、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日とし、平成31年度11月から実施されます。

医療者向け教育研修(多職種)

- ①緩和ケア医師研修 3月
- ②看とりケア(エンゼルケア)3月
- ③緩和医療研究会(第1金曜日 17時30分～18時30分)
 - ・緩和ケアチームカンファレンス(火曜日 15時45分～)
 - ・緩和ケア相談「緩和ケア相談室」(月～金 9時～16時)
 - ・ピュアサポート:がんサロン【絆】(火曜日 9時～16時)
 - ・緩和ケア啓発街頭キャンペーン(世界ホスピス週間)
 - ・遺族会(家族会) 11月

緩和ケア研修会



エンゼルケア研修会



資格取得奨励支援制度

職員が自らの職能の向上をめざし学習・研鑽する意欲を奨励、支援、助成し、医療・介護の質の向上に寄与することを目的としています。資格は職務の質の向上に寄与する程度や難易度によって、「奨励資格」、「支援資格」、「評価資格」の3つに分類されています。ここでは、制度を利用し「支援資格」に合格した実績を紹介します。

| 部門 | 資格名 | 合格者数(名) |
|--------|-------------------------|---------|
| 看護部 | AHA ACLSプロバイダー | 5 |
| | 呼吸療法認定士 | 2 |
| | 認定看護管理者教育課程(ファーストレベル研修) | 3 |
| | 認定看護管理者教育課程(セカンドレベル研修) | 2 |
| 薬剤部 | 外来がん治療認定薬剤師 | 1 |
| 放射線技術部 | 放射線管理士 | 1 |
| | 医学物理士 | 1 |
| | マンモグラフィー撮影認定技師(A) | 1 |
| 栄養管理部 | 日本糖尿病療養指導士(CDEJ) | 1 |
| 事務部 | ドクターズクラーク | 2 |
| 合計 | | 19 |

提案制度

●提案制度について

当院では、業務の改善や改革などに寄与する職員の提案を奨励し、その提案を積極的に採用することにより、組織に対する参加意識を高め、職場風土の活性化を促進するために提案制度が設けられています。

提案事項は業務に関連した創意と工夫による内容とし、全ての職員が提案する資格を有しています。また、担当職務範囲を超えたものでもよく、共同提案も可能となっています。

提案事項は提案委員会が受付窓口となっており、定期的に審議し採否を決定しています。採用された提案については、提案規程に基づき表彰を行っています。

●直近5年間の提案件数

(提案制度の1期は11月～翌年10月までです)

| | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 提案件数 | 32件 | 40件 | 33件 | 20件 | 17件 |
| (うち採用) | 18件 | 26件 | 28件 | 10件 | 14件 |
| (うち不採用) | 7件 | 6件 | 3件 | 2件 | 1件 |
| (保留) | 1件 | 3件 | 1件 | 2件 | — |
| (差し戻し) | 3件 | 2件 | 1件 | 2件 | 2件 |
| (その他) | 3件 | 3件 | — | 4件 | — |

●直近5年間の表彰実績

| | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 施設表彰・金賞 | 該当なし | 1名 | 3名 | 該当なし | 該当なし |
| 施設表彰・銀賞 | 2名 | 1名 | 3名 | 2名 | 1名 |
| 施設表彰・銅賞 | 3名 | 6名 | 4名 | 1名 | 2名 |

※施設表彰金賞、銀賞は優秀な提案に対して送られる表彰となっており、銅賞は提案制度年間ポイント上位者表彰となっています。

学会発表実績

| 部署 | 氏名 | 学会名 | 会期 | 演題名 |
|------------|-------|--|------------|--|
| 心臓血管外科 | 谷口真一郎 | The Heart Valve Society Annual 2018 Scientific Meeting | 4月12~14日 | Microscopic Minimally Invasive Mitral Valve Surgery Via Right anterolateral mini-thoracotomy In Octogenarians |
| 研修医 | 大和 慎治 | 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2018京都 | 4月14日 | 亜広範型(sudmassive)の亜急性肺血栓栓症(PE)に対し、外科的血栓除去術を行ったが出血性肺水腫に至った症例 |
| | 市川 宏美 | | | 超高齢者社会における「継続外来研修」導入の提案 |
| 小児科 | 犬塚 幹 | 第204回 日本小児科学会長崎地方会 | 4月15日 | 成人に達したてんかん患者の検討 |
| 小児科 | 山田 克彦 | 第121回 日本小児科学会学術集会 | 4月20~22日 | 小児肥満症の行動療法におけるコーチングの有用性 |
| | 犬塚 幹 | | | 血管迷走神経性失神の臨床像のおよび診断上の問題点に関する検討 |
| 脳血管内科 | 佐原 範之 | 第4回 Cerebrovascular Neurologist 研究会 | 4月21日 | 治療に難渋した脳底動脈閉塞の1例 |
| リウマチ・膠原病科 | 江口 勝美 | 第62回 日本リウマチ学会総会・学術集会 | 4月26~28日 | 長崎県北医療圏における関節リウマチ患者の抗HTLV-1抗体陽性患者の臨床的特徴 |
| | 來留島章太 | | | 日常診療下における非TNF阻害薬間スイッチ症例の検討 |
| 心臓血管外科 | 中路 俊 | 第46回 日本血管外科学会学術総会 | 5月9~11日 | マルファン症候群患者に生じたB型大動脈解離に対してTEVARを行った症例 |
| 呼吸器内科 | 小林 奨 | 真菌症フォーラム 第24回 学術集会 | 5月12日 | 肺病変を伴わない播種性クリプトコックス症の1例 |
| 臨床検査技術部 | 丸田 秀夫 | 第67回 日本医学検査学会 | 5月12~13日 | 法改正を受けての検体検査の品質・精度管理のあるべき姿「医療法・臨検法改正の経過」 |
| 糖尿病内科 | 松本 一成 | 第61回 日本糖尿病学会年次学術集会 | 5月24~26日 | SGLT2阻害薬の有効性を高める対話法について |
| | 明島 淳也 | | | 当院における周術期管理の実態調査 |
| 栄養管理部 | 貴島佐知子 | 第61回 日本糖尿病学会年次学術集会 | 5月24~26日 | 高齢糖尿病患者のフレイル調査 |
| | 江口 愛 | | | 食事記録から算出した管理栄養士間の栄養量の差異および自己学習による栄養算出量の変化 |
| 循環器内科 | 吉村 聡志 | ACP(米国内科学会) 日本支部年次総会2018 | 6月2~3日 | Spontaneous Isolated Superior Mesenteric Arterial Dissection Presenting Sudden Onset and Prolonged Epigastric Pain with Normal Laboratory Findings |
| 研修医 | 市川 宏美 | | | Can oral vitamin B12 for pernicious anemia replace the conventional treatment? |
| 医療安全管理部 | 朝倉加代子 | 第20回 日本医療マネジメント学会学術総会 | 6月8~9日 | 事例発生時に活せる医療安全教育の試み |
| 研修医 | 市川 宏美 | 第43回 日本外科系連合学会学術集会 | 6月21~23日 | 診断に苦慮したメッケル憩室を先進部とした成人腸重積症の1例 |
| 臨床検査技術部 | 片瀨 直 | 第107回 日本病理学会総会 | 6月21~23日 | 病理検体確認作業におけるウェアラブルカメラ・デジタルカメラ使用の試み |
| 腎臓内科 | 上条 将史 | 第63回 日本透析医学会学術集会・総会 | 6月29日~7月1日 | 非活動性感染症心内膜炎により脳梗塞を発生し、透析導入の契機となった真性多血症を伴う透析患者の1例 |
| 呼吸器内科 | 小林 奨 | 第85回 第二内科学会 | 7月14日 | 発症早期より経過を追う事が出来たGoodpasture症候群の1例 |
| 糖尿病内科 | 松本 一成 | 第13回 日本臨床コーチング研究会総会学術集会2018inさっぽろ | 7月14日 | 臨床コーチングの成果 |
| リハビリテーション部 | 川上 章子 | 第24回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会 | 7月14~15日 | 虚血性心疾患における骨格筋指数と運動習慣との関連 |
| 放射線科 | 平尾 幸一 | 第31回 九州・中四国地区ハイパーサーミア研究会 | 7月21日 | 興味深い経過を辿った悪性腹膜中皮腫の2例 |
| 小児科 | 犬塚 幹 | 第205回 日本小児科学会長崎地方会 | 7月22日 | 血管迷走神経性失神35例の検討 |



| 部署 | 氏名 | 学会名 | 会期 | 演題名 |
|-------------|-------|--|-----------|--|
| 循環器内科 | 吉村 聡志 | 第27回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 | 8月2～4日 | 第1対角枝(高位側壁枝)の完全閉塞で前乳頭筋断裂を来した急性僧帽弁閉鎖不全症に至った症例 |
| 研修医 | 松本 学 | 第322回 日本内科学会九州地方会 | 8月18日 | 強直性脊椎炎に合併した症候性内頸動脈狭窄の1例 |
| 健康管理部 | 田口久美子 | 第59回 日本人間ドック学会学術大会 | 8月30～31日 | 脂質代謝異常の経過観察域における保健指導の課題-禁煙指導の必要性- |
| リウマチ・膠原病科 | 植木 幸孝 | 第56回九州リウマチ学会 | 9月1～2日 | 関節リウマチにおける8年間の地域医療ネットワークシステムの検討 |
| | 江口 勝美 | | | 抗HTLV-1抗体陽性関節リウマチ患者のHTLV-1プロウイルスDNA量の検討 |
| | 荒牧 俊幸 | | | 関節リウマチに対する長期治療と生命予後 |
| | 來留島章太 | | | 悪性腫瘍を合併する全身性強皮症症例の検討 |
| 看護部 | 川尻 真優 | 第49回日本看護学会急性期看護学術集会 | 9月7～8日 | 転倒転落発生後の情報共有方法の統一に向けての取り組み |
| | 今村 則子 | | | 救急外来における看護記録の統一の取り組み |
| | 佐々木美紀 | | | 肩腱板修復術後の退院指導の充実を目指して |
| | 山口 大輔 | | | ICU入室前訪問におけるタブレット端末導入後の評価 |
| 放射線技術部 | 馬場 隆治 | 第46回 日本磁気共鳴医学会大会 | 9月7～9日 | T2Prep-mDIXONを併用した心電非同期3DTFE下肢動脈COR撮像の検討 |
| 臨床工学部 | 高見 昇吾 | 第13回九州臨床工学会 | 9月8～9日 | 透析システム変更における臨床工学技士の対応と今後の課題 |
| | 福田 龍太 | 第11回長崎県臨床工学会 | | 当院でのVPP契約器機器の故障発生状況報告 |
| 循環器内科 | 落合 朋子 | 第27回 日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会 | 9月14～15日 | 特発性冠動脈解離との鑑別が困難であった若年女性の急性下壁心筋梗塞症例 |
| リウマチ・膠原病科 | 荒牧 俊幸 | 日本脊椎関節炎学会第28回学術集会 | 9月15日 | 長崎県北部における脊椎関節炎の体軸病変に対する治療とその効果 |
| 脳血管内科 | 佐原 範之 | 第223回 日本神経学会九州地方会 | 9月15日 | 全身性エリテマトーデスに合併した可逆性脳血管攣縮症候群の1例 |
| 臨床検査技術部 | 伊藤 将大 | 第12回長崎県臨床微生物研究会 | 9月22日 | ISO15189の指摘事項について |
| 認知症疾患医療センター | 日和田正俊 | 第8回 日本認知症予防学会学術集会 | 9月22～24日 | 急性期病院におけるBPSD予防作戦(第3報)～院内認知症対応マニュアル作成に向けて～ |
| 研修医 | 市川 宏美 | 第54回 日本胆道学会学術集会 | 9月27～28日 | 急性胆嚢炎～Surgical high risk症例に対する恒久的経乳頭的ステント留置術の有効性の検討～ |
| 看護部 | 松下 みほ | 第49回 日本看護学会慢性期看護学術集会 | 9月27～28日 | 心不全パスにおける情報共有の実態調査～心不全離床スケジュール表の活用～ |
| 看護部 | 楠本 慈 | 第20回 日本褥瘡学会学術集会 | 9月28～29日 | 褥瘡予防についての振り返り |
| リハビリテーション部 | 向江 大輔 | リハビリテーションケア合同研究大会 米子2018 | 10月3～4日 | 臨床業務に必要なリハビリ分野における基礎知識と技術を習得するための教育システムの構築 |
| 臨床検査技術部 | 丸田 秀夫 | 平成30年度 日臨技九州支部医学検査学会(第53回) | 10月6日 | 在宅医療における臨床検査(技師)の役割とは? |
| 研修医 | 前田 賢吾 | 第81回 日本呼吸器学会・日本結核病学会日本カルゴイドス/肉芽腫性疾患学会九州支部秋季学術講演会 | 10月5～6日 | Uterine Lipoleiomyomaの多発肺転移が原発巣術後に自然消退した1例 |
| 糖尿病内科 | 松本 一成 | 第5回 日本糖尿病医療学学会 | 10月6～7日 | 行動変容を支援したい人はコーチングを学ぼう |
| リハビリテーション部 | 馬淵 重雄 | 第8回 日本ロボットリハビリテーションケア研究大会 | 10月6～7日 | 被殻出血症例に対して脳機能メカニズムを考慮しロボットスーツHALを使用した1症例 |
| 看護部 | 寺山 庸子 | 第43回 日本大腸肛門病学会九州地方会第34回九州ストーマリハビリテーション研究会 | 10月6日 | 独居高齢者の自宅退院支援～ストーマ受容からセルフケア確立までの関わりを通して～ |
| | 松下 みほ | 第22回 日本心不全学会学術集会 | 10月11～13日 | 心不全パスにおける情報共有の実態調査～心不全離床スケジュール表の活用～ |

| 部署 | 氏名 | 学会名 | 会期 | 演題名 |
|----------------|-------|--|---------------|---|
| 糖尿病内科 | 松本 一成 | 第56回 日本糖尿病学会 九州地方会 | 10月12 ~13日 | 地域連携バス「佐世保ブルーサークル」 |
| | 笹村明香里 | | | 佐世保中央病院における65歳未満の 2型糖尿病の外来患者の分析 |
| | 明島 淳也 | | | 当院の整形外科における 血糖管理の実態調査 |
| 看護部 | 野口早由里 | | | カートリッジ交換型のインスリン注入器 使用患者の実態調査と再指導を行って |
| | 加藤 陽子 | | | 糖尿病連携バス患者における 神経障害の現状報告 |
| | 静岡 靖代 | | | 患者会における カンパセーション・マップの有用性 |
| | 佐藤 文子 | | | 患者指導タブレット(iPad)の 使用評価の報告(第2報)23文字 |
| | 植木友理子 | | | 1型サークル(1型糖尿病患者会)における 糖尿病治療満足度調査 |
| | 本多 恵子 | | | 糖尿病教育入院患者における コーチングのタイプ分け調査 |
| 臨床検査 技術部 | 影平 宏美 | | | 当院でのフットケアへの 臨床検査技師の関わり |
| 栄養管理部 | 貴島佐知子 | | | 食行動が理想と離れている人の 身体的・心理的特徴について |
| | 山下祐理子 | | | 整形病棟における糖尿病患者と糖尿病 ではない患者のフレイルの点数の比較 |
| | 松永 大輝 | | | 当院における糖尿病教育入院患者の サルコペニア実態調査 |
| リハビリ テーション部 | 室島 央典 | | | 当院2型糖尿病患者で認知機能が 運動療法に及ぼす効果について |
| | 山口 宜人 | | | 診察待ち時間に行えるゴムバンド体操DVDに 対する職員向けアンケートの実施 |
| リハビリ テーション部 | 朝里 良太 | 九州理学作業療法士 合同学会2018in沖縄 | 10月13 ~14日 | サロン活動前後の身体機能の変化について |
| | 三宅 陽平 | | | リウマチ患者の 生活リズムに焦点をあてた一例 |
| 本部 | 田中 宏昇 | 経営スタッフ育成 カリキュラム | 10月19 ~20日 | 中期事業計画「自院の中期事業計画策定」 |
| 心臓血管外科 | 谷口真一郎 | 第59回 日本脈管学会総会 | 10月25 ~27日 | 無症候性脾動脈瘤に対する血管内治療の4例 |
| 小児科 | 犬塚 幹 | 第52回 日本てんかん 学会学術集会 | 10月25 ~27日 | 若年欠神てんかん3例の治療経過 |
| 外科 | 丸山圭三郎 | 第34回 長崎肝・胆道・ 膵外科研究会 | 10月27日 | 膵退形成癌の1切除例 |
| リウマチ・ 膠原病科 | 荒牧 俊幸 | 第20回 日本骨粗鬆症学会 | 10月26 ~28日 | 当院リウマチ・膠原病センターにおける リウマチ性疾患患者の骨粗鬆症の評価と治療 |
| 外科 | 國崎 真己 | 日本消化器関連学会週間 | 11月1~4 日 | 胃癌切除症例における術前Inflammation- based prognostic scoresの有用性の検討 |
| リハビリ テーション部 | 中島 拓哉 | 第2回 日本リハビリテー ション医学会秋季学術集会 | 11月2~ 4日 | 踵骨骨折術後の後足部治療に 着目した一症例 |
| システム開発室 | 坂本 一馬 | 全NUAシステム構築 技術研究会 | 11月8~ 9日 | 「超高速開発ツール」でシステム構築を早く!早く! ~システムでシステムを作る時代~ |
| 消化器 内視鏡科 | 佐藤 航平 | 第112回 日本消化器病学会 九州支部例会 第106回 日本消化器内視鏡学会 九州支部例会 | 11月9~ 10日 | 胆管切除術後に形成された縫合糸結石の1例 |
| 研修医 | 松瀬 春奈 | | | 肝脾硬度測定が有用であった 特発性門脈圧亢進症の一例 |
| 消化器 内視鏡科 | 松崎 寿久 | | | 糖尿病患者における膵癌早期発見の試み |
| 看護部 | 神田 奈央 | 第74回 九州消化器 内視鏡技師研究会 | 11月10日 | 内視鏡的ポリプ切除術の退院指導の実際 ~退院個 別チェックシートと退院指導用パンフレットを導入して~ |

| 部署 | 氏名 | 学会名 | 会期 | 演題名 |
|----------------|-------|---------------------------------------|---------------|--|
| 放射線技術部 | 中恵 龍一 | 第13回 九州放射線医療技術 学術大会 | 11月10 ~11日 | 当院におけるCIScoreの参考閾値の検討 |
| | 馬場 隆治 | | | T2Prep及びmDIXONを併用した1.5T 下肢動脈心電非同期COR撮像法の検討 |
| 臨床工学部 | 前田 博司 | 第44回 日本体外循環 技術医学会大会 | 11月10 ~11日 | 人工心肺開始後の人工肺入口圧力上昇に 対し人工肺全交換を行った1例 |
| リハビリ テーション部 | 馬淵 重雄 | 第3回 長崎再生医療と リハビリテーション研究会 | 11月15日 | 被殻出血症例に対して脳機能メカニズムを 考慮しロボットスーツHALを使用した一症例 |
| 腎臓内科 | 大塚絵美子 | 第323回 日本内科学会 九州地方会 | 11月18日 | 腎出血を来した維持血液透析患者の2例 |
| 研修医 | 平 鴻 | | | 発病早期より経過を追えた Goodpasture症候群の1例 |
| 脳血管内科 | 佐原 範之 | 第34回 NPO法人日本脳神経 血管内治療学会 学術集会 | 11月22 ~24日 | 緊急血行再建術後に Mendelson症候群で死亡した一例 |
| 脳神経外科 | 天本 宇昭 | | | 診断に二度の血管造影を要した 仙骨部硬膜動静脈瘻の一例 |
| 外科 | 國崎 真己 | 第80回 日本臨床外科学会総会 | 11月22 ~24日 | 腹腔鏡下胃全摘、噴門側胃切除術における 再建法に対する安全性と工夫 |
| | 森 くるみ | | | 胸腔鏡補助下横隔膜縫縮術が奏功した 横隔膜弛緩症の1例 |
| リウマチ・ 膠原病科 | 植木 幸孝 | 第33回 日本臨床リウマチ学会 | 11月24 ~25日 | ハイリスク患者の治療 |
| | 荒牧 俊幸 | | | 単施設における生物学的抗リウマチ薬および分子標的 合成抗リウマチ薬の継続率と中止理由についての検討 |
| 心臓血管外科 | 谷口真一郎 | 第31回 日本外科 感染症学会総会学術集会 | 11月28 ~29日 | 環境汚染が原因と考えられた心臓手術後の MRSAアウトブレイクの2事例 |
| 研修医 | 松本 学 | 第125回 日本循環器学会 九州地方会 | 12月1日 | シルデナフィルをはじめとしたケアバンドル導入が 奏功した肺高血圧症を伴う気腫合併肺線維症の1例 |
| | 市川 宏美 | | | 難治性急性特発性心膜炎に対し ステロイドパルス療法が奏功した一症例 |
| 看護部 | 宮岡真由美 | 第51回 九州透析研究会総会 | 12月2日 | シャント管理ワーキンググループ活動報告 |
| 外科 | 國崎 真己 | 第31回 日本内視鏡外科学会総会 | 12月6~ 8日 | 半腹臥位による胸腔鏡下食道憩室切除の1例 |
| | 森 くるみ | | | 腹腔鏡下胃全摘術における再建法の工夫 |
| 医療安全 管理部 | 朝倉加代子 | 日本医療 マネジメント学会 第17回 九州・山口連合大会 | 12月7~ 8日 | 医療安全対策・成功事例共有の試み(第1報) ~医療安全地域連携活動の取り組みを通して~ |
| 放射線技術部 | 中恵 龍一 | | | 感染防止対策地域連携相互巡回を経て ~「見える化」による意識対策~ |
| リハビリ テーション部 | 末武 達雄 | | | 当院リハビリテーション部における動画を 導入した安全教育の取り組み(第1報) |
| 循環器内科 | 吉村 聡志 | 第31回 心臓性急死研究会 | 12月15日 | ROSCまでに時間を要したが神経学的予後良 好であった拡張型心筋症の心室細動蘇生例 |
| 小児科 | 犬塚 幹 | 第206回 日本小児科 学会長崎地方会 | 12月16日 | ティルト試験中に30秒間の心停止を来した 血管迷走神経性失神の6歳女児例 |
| 栄養管理部 | 貴島佐知子 | 第22回 日本病態栄養 学会年次学術集会 | 1月11~ 13日 | 簡易問診票を用いた 高齢糖尿病患者のフレイル調査 |
| 消化器 内視鏡科 | 高木 裕子 | 第324回 日本内科学会 九州地方会 | 1月12日 | 集学的治療が功を奏した 成人横隔膜弛緩症の1例 |
| リハビリ テーション部 | 浦 佑亮 | 第30回 長崎県理学療法 学術大会 | 1月19~ 20日 | 家族で支え合うことで自宅退院が実現した stanford B型急性大動脈解離の一症例 |
| | 山中 博紀 | | | 気管切開下人工呼吸器装着患者の 自宅退院に向けた取り組み |
| 心臓血管外科 | 谷口真一郎 | 第49回 日本心臓血管 外科学会学術総会 | 2月11~ 13日 | 腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の 抑肝散投与による譫妄予防効果の検討 |

| 部署 | 氏名 | 学会名 | 会期 | 演題名 |
|-----------------|-------|--------------------------------------|---------------|--|
| 臨床工学部 | 前田 博司 | 日本医療 マネジメント学会 第19回 長崎支部学術集会 | 2月16日 | 在宅人工呼吸器導入における 臨床工学技士の役割 |
| | 谷口 一俊 | | | 当院における臨床工学部の医療安全管理への関わり ～医療安全地域連携活動に初めて臨床工学技士が参加して～ |
| 放射線技術部 | 伊藤 淳一 | | | 医療被ばく低減施設認定を更新して |
| 医療事務課 | 松瀬 和代 | | | 医療対話推進者として |
| 外科 | 國崎 真己 | 第91回 日本胃癌学会総会 | 2月27～ 3月1日 | 腹腔鏡補助下胃全摘術後 非閉塞性高度黄疸の1例 |
| 健診管理部 | 山口 千佳 | 第20回 九州予防医学研究 学術記念大会 | 3月2～ 3日 | 当施設における特定保健指導の実施について ～協会けんぽ生活習慣病予防健診受診者に対して～ |
| | 柴田和花菜 | | | 人間ドック結果報告に掛かる日数の目標化と 取り組みについて |
| 外科 | 丸山圭三郎 | 第55回 日本腹部救急医学会総会 | 3月7～ 8日 | 外傷性小腸腸間膜損傷に対する緊急手術後 5日目にS状結腸穿孔をきたした1例 |
| リハビリ テーション部 | 麻生 勝也 | 第13回 長崎心臓 リハビリテーション研究会 | 3月9日 | 退院前後訪問を通じて 生活環境の調整が図れた慢性心不全の1例 |
| リウマチ・ 膠原病科 | 植木 幸孝 | 第57回 九州リウマチ学会 | 3月9～ 10日 | SLEの新しい抗体製剤 ～ベリムマブへの期待～ |
| | 江口 勝美 | | | 当センターにおける非感染性 ぶどう膜炎患者の臨床的検討 |
| | 荒牧 俊幸 | | | 多彩な免疫学的異常を有するHLA B27陰性強直性脊椎炎の1例 |
| | 小島加奈子 | | | 当院関節リウマチ患者における 呼吸器感染症症例の報告 |
| 脳神経外科 | 吉永 貴哉 | 第44回 日本脳卒中学会学術集会 | 3月21～ 23日 | 内頸・外頸動脈逆位を伴う 内頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術 |
| リハビリ テーション部 | 末武 達雄 | 第26回 長崎県作業療法学会 | 3月31日 | 当院の地域包括ケア病棟の開設と 運用状況について |
| 地域包括 マネジメント室 | 兼石 匠 | | | サロンリーダー養成事業の実績報告 ～総合事業の受皿創生を目指して～ |